

甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和8年2月2日（月）作成

校長 「小宮山 昇」 記述者 職名（教頭）「武田 真弓」

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」



1 全体評価

○教職員自己評価について

今年度の教職員自己評価も、36の設問のうち34の設問で「A+Bの肯定的評価」が90%以上となっており、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念する姿勢が回答に表れている。

○小学生アンケートについて

「学校は楽しい」と回答している児童が90%を超えている。また、ほぼ全員の児童が「先生はよく勉強を教えてください」の質問に対して肯定的な回答をしており、学校での生活や学習が充実したものであることがうかがえる。

○保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだ」「学校は熱心に授業に取り組んでいる」の設問に対する肯定的な回答が90%を超えている。児童の学校での様子が家庭によく伝わっており、本校の教育に対する信頼がうかがえる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して

達成状況

- ・今年度は、学期ごとに目指す児童像が示され、それを意識しながら教育活動を行ってきた。どのような指導を行えばよいのかが明確だったこと、学期の終わりにふり振り返り、達成状況を確認したこともあって、教育計画や児童の実態に基づき、PDCAサイクルを生かした実践を行っていること全教職員が回答している。「誰とでもあいさつをしていますか」という設問に関する児童の肯定的な回答も昨年を上回っている。グランドデザインの修正が効果的であったことがうかがえる。

改善策

- ・今後も、児童の実態に基づき、児童と教職員が共有しやすい目標を設定していく必要がある。また、学校評価だけでなく、節目におけるふり振り返りを適切に行っていくことが有効であると感じる。

II 学校経営・運営・組織について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員評価では、13項目中12項目において肯定的な回答が約95%と、良好な学校経営・運営が行われているとの結果であった。一方、校務分掌の割り振りについての設問で肯定的回答が昨年度より少し減少した。 ・危機管理マニュアルの理解についての設問は、A回答が昨年度より向上した。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の割り振りについては、割り振りの内容や意図を丁寧に説明し理解を得るとともに、職員と相談し、複数で分担するような体制をとっていく必要がある。 ・「クマ出没対応」という新たな危機管理マニュアルが示された。今後も、変化する自然や社会の状況に対応するための知識をつけ、体制づくりを行っていく。
III 学習指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「学習の個性化」をテーマに校内研究に取り組んだ。学習指導に関する項目は、どれも肯定的な回答が95%を超えている。児童が意欲を持って参加できるような学習と基礎基本を身につけるための学習を両立し、工夫しながら指導してきた教職員の意欲が感じられる結果であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の90%が「国語・算数の授業が分かる」と回答し、保護者の95%が「学校は熱心に授業に取り組んでいる」と回答している。分かる・できるという実感を児童が持つことができるよう、今後も、毎日の授業を充実させる。否定的な回答をした数%の児童に目を向け、個に応じた指導を工夫する。また、分からないことを気軽に聞ける関係づくりを行っていく。
IV 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の95%が「児童の規範意識を育む指導に取り組んでいる」と回答し、児童の93%が「学校のきまりや約束ごとを守っている」と回答している。生徒指導に対して教職員が意識をもって取り組み、児童の行動にもその効果が表れていることがうかがえる。しかし「学校は児童の間違った行動に対し指導をしていると思う」という保護者アンケートの肯定的な回答が昨年度より若干減少している。児童の行動に不安を感じた場面があったのではないかと推測できる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校のきまりや約束ごとを児童に浸透させる指導を行う。ルールや期待する姿を明確に伝えて児童と共有し、一貫性のある指導を行っていく。また、引き続きいじめや不登校の未然防止に努める。児童の心の問題は年々対応が困難になっていることを感じる。関係機関と積極的に連携し、専門家のアドバイスを得ながら対応する。安心・安全な学校の実現に真摯に取り組んでいく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携に関する教職員自己評価5項目については、どれも肯定的な回答が95%を上回り、昨年と同等の成果を得ている。 ・保護者評価の「学校だよりやHPから学校の様子を知ることができる」「学校は保護者地域の声に耳を傾けている」「授業参観は子どもの様子を知る機会になっている」という項目のいずれも肯定的回答が80%以上となった。「児童のことについて相談できる先生がいる」と肯定的に回答している保護者も85%を超えていることから、学校と保護者・地域が良好な関係を築いていることが感じられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教育活動や児童の様子について積極的に情報を発信していく。保護者・地域の方が知りたい情報を提供することができるよう、読み手の目線での情報発信を意識する。 ・学校運営協議会やPTAの話し合いを通して、教育活動について共に考え、率直な意見交換を行っていく。開かれた学校に資する取組を行えるよう、信頼関係をより確かなものにする。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「CSは児童の豊かな学びを実現する上で有益な仕組みとなっている」と回答した教職員「地域の人が教えてくれる授業はためになっている」と回答した児童が、いずれも95%を超えた。地域と連携した教育活動が、実りあるものであったことが分かる。 ・児童の心身に配慮するため、また、ゆとりある学校生活を実現するため、本年度は日課表を改編した。朝の活動を見直したことで時間が生まれ、児童会活動や学校行事を行う双西タイムを設けることができた。「改編によって生活しやすくなった」と回答した児童は95%にのぼった。「学校は、行事や日課を工夫し、児童の成長を促す教育活動を行っている」と回答した保護者も90%を超えた。改編の効果が感じられる結果であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで続けてきた活動を基盤に、今年度研究した「学習の個性化」などの今日的課題に即したCSの在り方を考えていく。また、教育活動に関わってくださる人材を増やしていくために、CSについての情報を広く発信し理解を深める。 ・心身を健やかに保つことが学力の向上や良好な人間関係の構築につながる。今後も児童の健全な育成を念頭に、日課や行事の見直しを行い、児童が楽しく生活しやすい学校をつくる。また、常に「保護者・地域と共に」という意識をもち、学校と保護者・地域が連携して児童の育成を行うことができる体制を整えていく。
3 まとめ <成果> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員評価・保護者アンケート・児童アンケートとも、肯定的に評価されており、本年度の目標は達成されたのではないかと考えられる。また、学校と保護者・地域の距離が近く、互いに信頼関係を築くことができているのではないかと考えられる。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・成果でも述べたとおり、本年度も良好な結果を得ることができているので、この状態を継続していくことが大切である。児童一人一人に目を向け、児童が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、職員が一丸となり、保護者・地域と連携して教育活動に取り組んでいきたい。 	